

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0570406207		
法人名	医療法人 光智会		
事業所名	グループホームおおだて		
所在地	秋田県大館市片山町3丁目14番14号		
自己評価作成日	令和3年2月22日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.akita-longlife.net/evaluation/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 秋田マイケアプラン研究会		
所在地	秋田県秋田市下北手松崎字前谷地142-1		
訪問調査日	令和3年3月12日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

同法人の西大館医院・介護医療院西大館病院・介護老人保健施設(大館園・ひかり苑)等の各事業所と、医療・介護サービスを連携し行っています。
三階がグループホームとなっています。居室や屋上からの眺望が良く、大館を見渡すことができ、地域の景観や季節を感じることができます。ホーム内でも季節を感じて頂けるよう工夫しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

母体病院による訪問診療が行われ、訪問看護ステーションとの連携によって随時相談できる体制にあり、医療面で心配することなく生活でき、家族の安心感にも繋がっています。職員はホームの理念を共有し、利用者が自分のペースで暮らせることを第一に考えて利用者を支え、寄り添いながら毎日の業務にあたっています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~53で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
54	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	61	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
55	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	62	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
56	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	63	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
57	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	64	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
58	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
60	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、代表者と管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	『思いやりをもって、ゆっくりと、安心して共に生活を送れるよう支援していきます』というGH職員で作ったものを入口・ホールなどに掲示し、理念のもと支援しています。	職員でつくり上げた理念を共有し、生活を共にすることで家族と思い、それを意識しながら日常のケアに活かせるように取り組んでいます。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ禍の影響で、今年度は地域・町内のイベント等、例年のように参加することができなかった。ボランティアの受け入れも遠慮して頂いている状況で、今後どう地域とのつながりを保っていけるか課題である。	ボランティアとの交流行事はやむを得ず中止していますが、高校生の就業体験は継続しており、散歩時に近所の方と挨拶を交わす等、ホーム自体は地域に認識されています。	
3		○事業所の力を活かした地域とのつながり 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に伝え、地域貢献している	運営推進会議を通じて出席者等へ地域の理解を得られるようにしていたが、コロナ禍に入り報告書の提出のみとなっている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍に入ってから報告書類の送付のみとなってっており、意見交換はできていない。今後の会議の運営について、リモート等の利用検討要する。	行政、町内会、婦人会等、参加メンバーからの意見をサービスに活かすことができていたが、現在は書類送付にとどまっているため、対面会議に見合う方法を検討しているところです。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市の担当職員が運営推進会議の委員として参加していたが、コロナ禍の影響で定期的な報告のみとなっている。	包括支援センターや生活保護担当部署と連絡を取り合い、利用者の支援に繋げていけるよう取り組んでいます。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	『身体拘束をしないケア』を原則として、全職員が共通の認識を持った上で、緊急やむを得ない(生命の危険性がある)場合に限って実施する場合があります。	身体拘束をしないケアに努めており、その事例はありません。法人内の研修内容は全員が共有できるよう取り組んでいます。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	身体拘束も含め、『不適切なケア』を行わないようにし、虐待が行われないよう常に注意を払い、防止に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	市の社会福祉協議会、生活保護や福祉生活サポートセンター等と連携し、必要な支援を得るようにしています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	懇切丁寧な説明を心掛け、同意に関しては文書にて署名捺印をいただいています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族様には運営推進会議への参加を呼びかけているほか、面会時や電話での連絡時に近況報告をし、ご意見・ご要望があればその都度お伺いしています。	電話等を利用して意見を引き出す機会としており、コロナ禍での面会方法を考える等、家族との会話からその思いに気づけるように努めています。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	定期的カンファレンスや申し送り、日常生活の中で職員からの意見・提案を聞くように努めています。また、申し送りノートでご利用者様の状況変化などの情報共有をしています。	会議の他、日常の業務を通して職員の意見を聞いており、介護備品の購入や物干し場の設置等、利用者の支援に繋がる提案を反映させています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課により適正な給与管理に努めている他、法人全体で『働きやすい職場環境』の整備に努めています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、代表者自身や管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	可能な限り職員の研修の機会を確保するように努めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、代表者自身や管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	『秋田県認知症グループホーム連絡協議会』に加盟し、サービスの向上に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人様・ご家族様と面談の上、生活歴やご要望等を聴取させていただき、可能な限りご要望に沿えるよう努めています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	利用開始前から事前訪問やホーム内の見学。ご本人様、ご家族様、サービス提供者と面談し、現況確認や今後グループホームでの生活へのご要望をお伺いし、信頼していただけるように努めています。		
17		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	一緒に食事準備をしたり、家事仕事をしたりと、日常生活を『共に』暮らすということを基本とし、感謝の気持ちを忘れず良好な関係を築けるように努めています。		
18		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	職員の考えからの一方的な援助にならないよう、サービス提供に努めています。ご家族様との外出や外泊に関しても可能な限り支援しています。		
19	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	友人・知人の面会はいつでも受け入れていきます。また、入居前のかかりつけ医の継続や行きつけ美容院の利用。ドライブでは馴染みの場所を通る等しています。	馴染みの間柄である婦人会の方々との交流や帰宅することが今は叶いませんが、訪問理容の方とは新たな馴染みの関係がつけられ、散歩や受診も関係継続の一端を担っています。	
20		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	日常の洗濯物や食事の支度を利用者同士が協力し合って行えるように支援したり、食堂ホールの配置・席等も利用者同士の関係を考慮しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて退居後の状況確認を行っている他、常に相談に応じることのできる体制をとっています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
22	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	生活歴・職歴等、可能な限り把握できるように努めています。また、日常生活の中からも希望・要望を汲み取ることができるように努めています。	普段の何気ない会話の中から意向を汲み取り、口頭或いは申し送りノートで情報を伝達して共有し、介護計画に反映させています。申し送りノートは2ユニット共通で使用しており、ユニット間の連携が図られています。	
23		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様・ご家族様。入居前のサービス提供者等と面談の上、生活歴や要望などを聞き取りし、ご本人様の今までの生活について把握できるように努めています。		
24		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居後二週間は時系列での記録を行い、生活パターンを観察し、把握できるように努めています。また、変化が生じた場合も入居時と同様に時系列で24時間の観察と記録を行っています。		
25	(10)	○チームでつくる介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	定期的にかンファレンスを行い、ご家族様の思いやご本人様のニーズに沿った介護計画の作成に努めています。	業務中の職員の意見も参考にしてカンファレンス、モニタリングを行い、現状に即した介護計画を作成しています。	介護計画を意識し、気づきや変化も併せて記録することで再アセスメント、モニタリングに活用できる効果的な記録の仕方を期待します。
26		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	利用者様の個別記録にて皆が確認できる状態にあります。必要に応じ申し送りやノート等で伝達し、情報を共有して介護計画の見直しに生かしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(今年度はコロナ禍の影響で例年のように参加はできませんでしたが)地域行事への参加、町内婦人会等のボランティア活動を受け入れ等、可能な限り地域資源を活用して支援しています。		
28	(11)	○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居前からのかかりつけ医を継続し、希望があれば母体である法人の病院も利用しています。また、受診時は職員が同行し、結果や変化等は都度ご家族様に報告し対応しています。	母体病院の他、入居前からのかかりつけ医での受診も支援しています。母体病院の訪問診療を毎月受けている他、訪問看護ステーションが併設されていることから連携が図られており、適切に支援できるよう取り組んでいます。	
29		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	非常勤の看護師を配置し、利用者様の健康管理を行っている他、受診が必要かの判断や医療機関との連絡調整を看護職員と相談して行っています。		
30		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時は必要な情報を提供し、ご家族様と医師からの説明を受け、退院後の受け入れの体制を整えています。また医療機関の担当看護師等と情報交換や相談を行うようにしています。		
31	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	利用開始時に重度化した場合の指針について説明を行っている他、医療機関と連携し、可能な限りご本人様・ご家族様のご希望に沿えるよう努力しています。また、関連の病院や老健との連携を図り支援しています。	状態が低下した場合は医師が医療行為の必要性の可否を説明し、管理者は法人内の関連施設への移行支援を行っています。	
32		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	利用者様個々の病状の急変対応について事前に取り決め、全ての職員が対応できるようにしています。		
33	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防計画を定め、災害時には消防機関及び関連施設への通報・連携体制を整備しています。	避難訓練の他、消防設備の点検、使用法の訓練を定期的に行っています。ホームが3階にあることから火災時に避難する際の方法を消防と話し合っています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
34	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者様の自尊心や感情に配慮した言葉かけや対応を心掛けています。	一人ひとりの気持ちを尊重し、その人のペースで過ごせるよう支援しています。また、声かけの仕方や不安を訴える方への対応等、その人毎に配慮できるよう取り組んでいます。	
35		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご本人様の会話等で隠れた思いもできる限り汲み取れるように心がけ、可能な限りご希望に沿えるように心がけています。		
36		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ご本人様の生活パターンやその日の気分や状態に合わせたケアを心掛けています。		
37		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	お化粧品や好みの衣服の着用等を継続できるように支援しています。		
38	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	買い物・調理・盛り付け等を職員と一緒に行うように努め、ゆっくりと会話を楽しみながら食事ができるように心がけています。	外食や恒例のきりたんぼ会は休止していますが、利用者が食べたいものを誕生日や行事に合わせて提供するようにしています。洗い物や茶わん拭き、お菓子づくり等、できることを一緒に行っています。	
39		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事・水分量等のチェックシートを用いて記録・管理しています。また、毎月体重測定を行い、栄養状態の目安としています。		
40		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食事後や就寝前に歯磨きやうがいを実施しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人様の排泄パターンに合わせてトイレへの声掛け、誘導を行っています。車いすの方も可能な限りトイレでの排泄ができるように支援しています。	声かけが必要な方もおりますが、自立している方が多く、布パンツのみ、或いはパッドを併用してトイレで排泄しています。紙パンツから布パンツに移行できた方もおり、状態を維持して負担軽減に繋げています。	
42		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事量・水分量の確認を行い、体操や歩行運動で排泄を促すとともに、必要に応じて医師に相談して下剤等の処方を受けています。		
43	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週に二回の入浴日は決まっていますが、希望があればできるだけ対応できるようにします。	利用者全員が湯船に浸かって、入浴しています。朝清拭を行って下着を替え、水虫のある方には足浴を行い、清潔保持できるよう支援しています。	
44		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	居室の明るさ・温度・湿度の管理を行うとともに、使い慣れた寝具を使用するなど配慮しています。		
45		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医療機関からの指導に基づいて服薬管理を行っています。		
46		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	食事準備・洗濯物など、できることを把握し、職員と共同で行うようにしています。また、季節を感じたり気分転換のためにもドライブ等にも行っています。		
47	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	ドライブや外出の機会をできるだけ確保し、天気の良い日は近所の散歩などを行っています。また、本人や家族の希望があれば外出についていつでも対応できるようにしています。	受診の帰りにドライブし、近所を散歩したり屋上で日光浴をしたりとできる限り外の空気に触れ、気分転換できるように支援しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	近所のスーパーやドラッグストアと一緒に出掛けて、嗜好品などを本人が買い物できるようにしています。(今年度はコロナ禍の影響で控えています)		
49		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご本人様の希望に沿って常時対応しています。		
50	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、臭い、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	常に清潔を保つようにし、不快にならないよう配慮した飾り付けで、季節を感じていただけるようにしています。	入院病棟を改装してホームとして使用しているため、それを感じずに過ごせるよう環境整備に努め、過度に飾りつけせず、熱帯魚の水槽を置く等して殺風景にならないよう心がけています。	
51		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共用スペースの中にも一人になれるような位置に椅子を配置したり、ソファや長椅子で他の方を気にせず会話ができるように配慮しています。		
52	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	家具やベッドなどの居室に備え付けのものはありますが、落ち着いて安心した生活ができるように、使い慣れたものや大切なもの等を持ち込むことに大きな制限はありません。	自動換気装置、温湿度計が設置され、ベッドの配置を工夫する等して快適な生活環境となるよう配慮しています。ソファやテレビ等を持ち込んで自分なりの生活の場をつくっています。	
53		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ご本人様の状態に合わせた車いすや歩行器などの福祉用具を用意しています。また、プライバシーに配慮し、ご家族様の了承の下、居室のネームが見やすいように工夫しています。		